

令和4年8月5日

京口門だより No. 106

早や立秋(7日)が近いというのに、猛暑のなかでコロナ感染症の新株が暴れ回っています。感染力は強いが重症化は少ないとして、以前のような社会的制約は取らず、個人の感染予防に期待すると言うような国の施策です。経済的な活動の低下を防ごうと言うことなのでしょうが、個人の感染予防に頼るのはいかにも頼りない方法に見えるのは私だけでしょうか。

個人的な感染予防といっても、検査キットを配って自分で判断し、重症化しそうなしかるべき医療機関にかかるようにというのでは不安がつります。コロナ感染症症状には個人のセルフケア(自分で健康管理をする)を推奨しますと言われても、何をどうして良いのやら、医学知識の少ない人にとっては困りものです。発熱したら解熱剤、咳が出れば咳止め薬など個々の症状に市販薬で対処してくださいというのでは、ちょっと頷を傾げたくになります。

疑問ばかり言っていないで、ではどうするのが適切なことかということですが、私は新型コロナに感染したら、先ず初期に漢方薬を飲まれることを勧めます。ああ葛根湯ですか!それなら感染症の専門家も言っていましたとなりますが、そんな簡単なことではありません。

漢方では普通感冒、インフルエンザ、このコロナ感染症にしても、こうした感染症に対して一定の治療原則があります。感染の時間経過とその症状によって用いる漢方薬が変わってきます。かかって1~2日であれば、寒気や頭痛ときには身体のいたみや関節痛を起こすことがあります。その時は体表から汗を出す漢方薬を用います。しかし、この状態は忙しい日常ではなかなか見つけにくいもので、ついやりすごして感染症が進んだ状態になります。

感染を起こして5~6日も経てば、発熱したり寒気がしたり、咽の痛み、咳、食欲がなくなるなどの症状が起こってきます。それには発汗剤は適切ではなく、熱を清和する漢方薬、例えば柴胡桂枝湯や小柴胡湯を主とした漢方薬を用います。大まかに言いましたが、このように時期と症状を考えて漢方薬を使いますと大変有効です。実際に何千例の症例に用いて有効であった治験例が発表されています。私のところでも新型コロナに漢方薬を用いて経過の良かった方が何人もおられます。

自宅や療養施設であまり有効な手立てもなく過ごすくらいなら、早く適切な漢方薬を飲んで回復を図って下さい。

